

迎古夢旅 4703 : 桂林漓江・夜明け前取材の記 P122

早朝というより、夜中。舟小屋がある程度で、家らしい家はない。
通訳さんと私の熱意が通じたのか、**何回かの交渉で、OK**してくれたのである。
今回は、前もって、ロケハンもしている。和紙を使った夢絵だけに、
また、**水墨画の世界**ということもあって、気合が入っている。**たかが一枚の作品**だが…
鋭角の峰々は面白いが、**それだけでは平凡**。私の求める作品にはならない。
写生画、写実画を超えたものの創作。具体的なイメージがわからない。

ロケハン時の第一印象、都会はともかく、人間性や民度だろう。
漓江の水量も少なく、**ゴミが多い**。その時期だけのことだったのか、印象として**実に汚い**。
前日、川筋のゴミを集めることから始めたが、そんな量ではない。絵にならない。
期待していただけに、**失望**に近い状況。遠目、夜目、いろいろ想像しても始まらない。
桂林取材。制約された条件下で、本番に、全力を尽くすのみ。
知恵を絞っての苦肉の策が、夜明け前の取材。



2020年10月1日から1週間、国慶節のテレビ報道・SNS画像。
黄山も写っていた。超過密。半端ない、**大量のゴミが、谷底に捨てられるだろう**。
人海戦術でも、回収は難しいだろう。子孫に禍根を残す。

話が前後するが、漓江下り、スタート。やがて、出発の時間、電気設備のある場所ではない。

足元も暗い。水際も見えにくい。船頭さんが手を差し出してくれ、無事乗船。

小さな船である。安定しない。お互いのバランスのとれる乗る場所。やがて、安定した。

私は**船首**。硬く、握手。ありがとう、と日本語で。

通じるものがある。ニコリと笑ってくれた。船は、いまだ、いささか**不安定**。

立ち上がるのは、難しそうな状態。和船と呼ぶより、筏のような小舟。覚悟はしている。

桂林の漓江下りには、観光船もある。夜が明けてからの出発である。

それでは眼前の光景に出くわさない。

この小舟を確保するのに、通訳がサポートしてくれたのは、前述通り。

日本から来た先生。和紙で水墨画のような作品を創っている芸術家。東京銀座4丁目、

三越百貨店美術画廊で**個展**を開催した、超有名な先生。いささか、こそばい思い。

東京銀座、三越百貨店の知名度、威力はすごい。時代が激変。今の中国人の意識はどうか

プレゼント用の小作品やお土産、ポストカードも持参してきている。

この通訳の友人は、当時26歳。**日本への興味や憧れ**を抱いていた夢多き青年。

相性も良かった。なにしろ一人旅。自由がきく。

半端でなく、何日も共にしている。コミュニケーションも深まり、恋人も紹介してくれた。

後日、お宅も訪問。家族も紹介してくれた。恋人の妹さんまで加わり、

皆んなでカラオケやハイキングにも出かけた。私には、将来の夢まで語ってくれた。

最後に、通訳の彼が、自分が払うと、請求書を確認。その後、彼に払わせる訳にはいかない。

私が払いますと、レジへ出向いた。黙っていればよかったのだが、

日本人と分かった途端、**料金が倍**に。この場では、喧嘩はしなかったが、

別の事件もあった。レンタサイクルのデポジット（保証金）も、預かっていないと、

控えを持っているのに、言い張る。宿のフロントマンに、サポートをお願いしたが、**拒絶**。

この時は一人。日常茶飯事、こうしたことがあるのだろう。私もいろいろ経験している。

恐ろしかったが、結論が出ない。上司を読んでもらった。結果は、次の結論。

私の剣幕に、恐れをなしたよう。**言い草が気に入らない**。後の話だが、

大抵の日本人は、それで引き下がるはず。金のためには、手段を選ばない印象を持った。

そうした人ばかりではないと思うのだが、今も**信用**できない。トラウマ。

やってみないと、わからない事が、世の中には、一杯ある。始めなければ始まらない。

失敗は、失敗で学ぶ事ができる。知恵も得られる。費用もかけ、時間もかけ、楽しみ、学ばないことにはお金に申し訳ない。有り余るお金ではない。自分への投資である。

失敗の数は、私が一番多いかもしれない。始めたのが遅い。

言い訳なし。まず、実践。失敗から学ぶ。今までそうしてきている。あとは、**運の問題**。

話を元に戻して、**桂林から陽朔までの、漓江下り**。

漓江の流れ。船頭さんも通訳さんも、**私の視点や感性を理解できるはずがない**。

どの時間帯に、どのあたりを航行するか、予想できないから、面白い。

流れもあり、思うようにはいかない。足元も不安定。

中国の紙幣に使われている名勝が、この漓江下りの途上にあるという。

自然相手、急流もある。その後の景観との出会いは、無我夢中の格闘の時間。

船頭さんの必死の対応。現場で五感を全開して体感する瞬間は、最高の至福の時間である。

何が起こるかわからない未知への挑戦。

今思うに、大の大人になった今も、いたずら心や遊び心を持ち合わせている。

純粹、少々抜けているからできる。**神がかり的な運の助け**もある。



今、文章を書いている、AI はじめ、世相がすっかり変わってしまうような出来事が多い。

私には、対応できない不安も脳裏に… 別な選択肢があるのではないか。

時代の流れも加速。勉強が追いつかない。果たして、どうするか、それが大問題。

ゆっくり、足元を、^{きやつかしように}**脚下照顧**する時間をつくりたいと思っている。



心模様もマンネリ？ ただし、ありがたいことに、興味を持っていただける方々もおられる。

サーバー統計も一定の数字があり、休ましていただいても、バックナンバーを…

未公開の画像は、まだまだストックはあり、日々外出、出会いもあり、**取材も継続中**。

反面、友人知人の訃報、引き際をいつにすればいいのか、そんな考え方も脳裏をよぎったが…

鎌倉で親交のあった、何度も夕食をご一緒、大会社の、元社長、会長を歴任。

10 歳先輩から頂戴した短歌集「**歌集読み、酒のみ短歌つくる日々、吾が最終章に、短歌あり**」

「口かわき目もよくかわく老なれど、**心かわかさず余生を生きる**」と、元気を頂いた。

今、施設へ転居。**達筆の年賀状、2021 年、来年も楽しみである**。

視点を变えて、日々、健康のため、小さな旅も含めて… 今に全力投球。

今年も愛宕道から六丁峠越え、保津峡をママチャリで訪ねて、**漓江下り**を思い起こしていた。

その上、自然からのパワーも、もらった。琵琶湖半周も実践。

多少、強がりだが、独りよがりには体力テスト、**何よりも心身健康維持のため**。